

病院におけるバス停の利便性に関する研究

名古屋大学 学生会員 ○大石 直毅
 名古屋大学大学院 正会員 加藤 博和
 名古屋大学大学院 正会員 大野 悠貴

1. はじめに

バスを利用するためには、路線、時刻、運賃などの情報が必要となる。加えて、利用するまでに待ち時間が生じることもあるため、安全かつ快適に待つことができる環境が重要になる。しかしながら、これらの条件を満たしていないバス停が多く存在している。

一方、図-1より、年齢が上がるにつれて、病院の外来患者は増加し、運転免許保有率は減少するため、特に高齢者にとって病院にアクセスする公共交通機関の必要性は高い。そこで、利用する際に必要な情報の掲示や、待合環境の整備が必要である。

これを踏まえ、本研究ではまず、病院に設置されたバス停の現状調査と評価を行う。次に、現地調査によって設備が優れていると判断した病院を対象に、ヒアリング調査を行い、そのような状況が実現するに至った経緯を調べる。加えて、住民懇談会の場を活用したヒアリング調査をもとに、病院のバス停に対する利用者のニーズを把握する。以上の結果より、利便性の高いバス停をつくるために必要なことを明らかにし、改善のための示唆を得ることを目的とする。

2. 病院におけるバス停の現状評価

2.1 現地調査の概要

愛知県尾張地域内にある206か所の病院(2018年4月現在)¹⁾のうち、約1/3の75か所をランダムに選択し、現地調査を実施した。病院建屋内の受付や待合室にあるバスを案内する掲示物や配布物と、病院のアクセスに使われると考えられるバス停、および病院とバス停間の環境について調査した。「病院内の情報」「病院とバス停間の環境」「バス停の案内」「バス停の設備」の4つの地点・観点から、調査項目を決定した²⁾。この際、

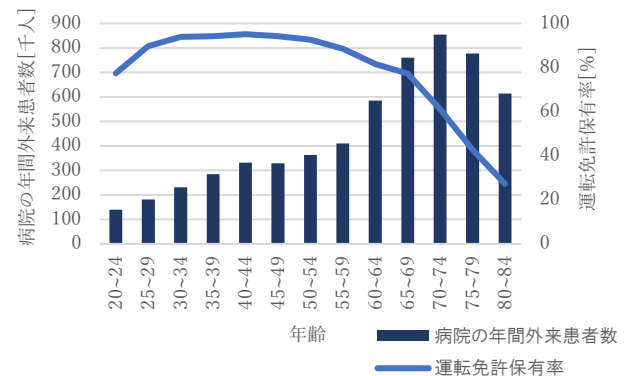


図-1 平成26年 病院の年間外来患者数・運転免許保有率

(出典：厚生労働省 平成26年(2014)患者調査の概要

警察庁 運転免許統計 平成26年度版)

旅客自動車運送事業等運輸規則でバス停への記載が義務づけられている項目は除外した。

2.2 現地調査の結果

図-2から図-5に現地調査の結果を示す。図-2より、約半数の病院で建屋内に、バスを案内する掲示物・配布物が見られた。図-3より、病院建屋からバス停まで歩道が連続的に整備されているバス停は多くみられたが、点字ブロックや屋根が連続的に整備されているバス停はあまり見られなかった。図-4より、バスロケーションシステム、乗車時間、ネットワーク図の記載されているバス停はあまり見られなかったが、その他の項目は多くのバス停で記載されていた。図-5より、バスを安全に待てるスペースは多くのバス停にあり、上屋とベンチはそれぞれ半数ほどのバス停にあった。

3. 病院の意向について

3.1 ヒアリング調査の概要

現地調査を踏まえて、バス停設備や案内が優れていると考えられたいくつかの病院に対して、ヒアリング調査を実施した。一部の病院ではヒアリング調査の代わりに、書面を用いて調査を行った。表-1にその調査内容を示す。

表-1 ヒアリング調査の調査内容

1. 病院内の案内物の設置経緯や、その更新主体
2. バスの病院への乗り入れの経緯
3. バス運行者との過去や現在のやり取り
4. 来院者の各交通手段の割合
5. その他各病院固有の事柄について

3.2 ヒアリング調査の結果

表-2にヒアリング調査の概要を示す。病院内の案内物については、病院が自主的に設置している病院が多くみられた。一方で、病院へのバスの乗り入れについては、運行者側からの提案で行っているところが多くみられた。また、過去に病院へのバスの乗り入れや、バス停の位置変更や本数拡大の要望、病院内での案内物の設置などについて運行者とやり取りがあった病院は多くみられた。一

方で、ダイヤ改正時などに時刻表の融通などのやり取りはみられるものの、それ以外に定期的にやり取りが行われている病院はあまり無かった。バスも病院も同じ自治体が運営している場所では、病院と運行者の結びつきが比較的強く見られた。

4. 利用者の意向について

今後、住民懇談会にてヒアリング調査を行い、病院のバス停に対する利用者のニーズの調査を実施する予定。

ヒアリング調査の結果と、その他詳細な結果は発表会当日に報告する。

参考文献

- 1) 愛知県 愛知県内の医療機関名簿について
- 2) 北海道運輸局 利用者・バス事業者双方にとって利便性が高いバス停留所のあり方についての調査業務報告書

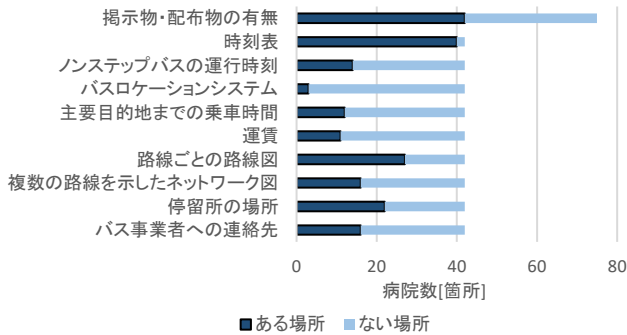


図-2 調査項目（病院内の情報）該当箇所数

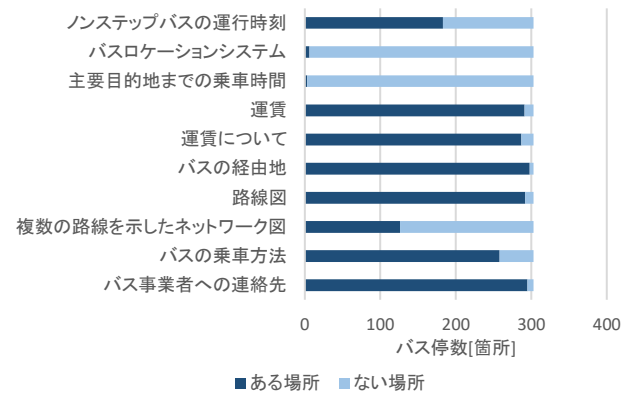


図-4 調査項目（バス停の案内）該当箇所数

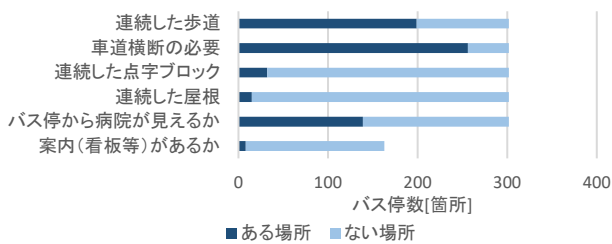


図-3 調査項目（病院とバス停間の環境）該当箇所数

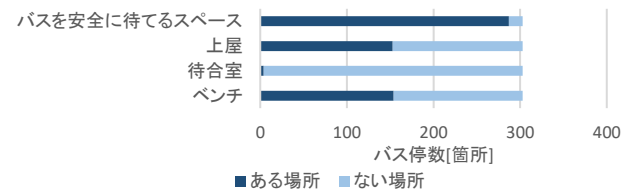


図-5 調査項目（バス停の設備）該当箇所数

表-2 ヒアリング調査の結果の概要

病院名	運営主体	病床数	診療科目数	回答方法	案内			乗り入れ		運行者とのかわり		公共交通利用率
					設置主体	管理主体	運行者からの情報提供	乗り入れ	提案者	過去	現在(定期的)	
東名古屋病院	国立病院機構	468	24	文書	-	-	-	有	-	-	無	-
名古屋市長西部医療センター	市	500	33	文書	病、運	病、運	有	有	運	有	有	-
公立西知多総合病院	2市の組合	468	31	ヒア	運	運	有	有	運	有	無	12%
小牧市民病院	市	558	28	ヒア	病	病	無	一部有	運	有	無	-
愛知医科大学病院	学校法人	900	21	文書	病、運	病、運	有	有	病、運	有	有	-
相生山病院	医療法人	162	5	ヒア	病	病	無	無	-	有	無	2%